

なやばし

グッドニュース

三重総合 2006年(平成18年)9月28日 木曜日



©朝日新聞社 2006年
発行所 名古屋市中区栄1丁目
3番3号 〒460-8488
朝日新聞名古屋本社
電話 052-231-8131

人工透析者に 伊勢志摩巡り

人工透析が必要な人にも、現地で透析を受けながら、ゆっくり伊勢志摩地方の旅行を楽しんでもらいたい。宿泊や旅行業などを営む7企業・NPO法人でつくる事業参加共同体「伊勢志摩交流フロントコンソーシアム」(吉川勝也代表)が、こんなツアーを検討し、今年度も模範ツアーを催す。来年度からの本格的な事業化を目指しているが、透析施設の確保と採算性が課題という。

(岡本真幸)

宿泊業者など検討

夕食例だ。栄養士の協力を得て、地元の食材を使いながら塩分やカリウムなどを控えた。コンソーシアムは受け入れ宿泊施設の調理人の指導もした。

この調査ツアーは、経済産業省から委託されたサービス産業創出支援事業(集客交流部門)の一環。コンソーシアムは健康と観光産業を結びつけようと、04年4月に結成された。病院で透析を受けた旅行者にホテルが透析食を提供する例は全国にあるが、国内での透析付きツアーは例がないという。

食事、塩分やカリウム控え

調査ツアーには、日帰り(昨年12月)、2泊3日(今年1月)、2泊3日(同年1月)、2泊3日(同年1月)の3種類に、県内や広島、大阪両市、愛知県から透析者18人と同伴者6人が参加した。

2泊3日の場合、初日は伊勢市に集合し、伊勢神宮内宮とおかげ横丁を自由行動。2日目は午前中に狼田彦神社を参拝した後、午後には同市内の民間医療施設で6人が透析を受けた。最終日は午前中の鳥羽湾めぐりクルージングの後、コンソーシアムのヒアリングを受けた。ヒアリングでの回答は、「食事はとても豪華でおいしい」「透析日に温泉に入れられうれしかった」など、おおむね好評だった。反省点としてコンソーシアムは、夕食を1品ずつ出す通常の方法で給仕するため、全体量の把握と量の調整が難しかったなどの点をまとめた。

調査ツアーでの昼食。塩分やカリウムなどを控えめにし、地元の食材を使った=鳥羽市で、伊勢志摩交流フロントコンソーシアム提供



からだから

施設の確保、採算性が課題



ご購入のお申し込みは
0120-33-0843
(毎日7時~20時)

速報はアサヒ・コム
インターネット情報接続先
<http://www.asahi.com/>



事業の問い合わせは、コンソーシアム代表団体のサン・サービス(0599-26-5818)へ。

贈: ASA 朝日新聞社